

TIMMAWA

TIGNAY DAGITI MANNALON A MANGWAYAWAYA ITI AGNO

(PEASANT MOVEMENT TO FREE THE AGNO RIVER)

(アグノ川の自由な流れを取り戻す農民運動)

Apartment # 5, (sa harap ng DMQUUNHS), Nancayasan, Urdaneta City

email: staff_timmawa@yahoo.com

アグノ川統合灌漑事業 (ARIIP) に関するポジション・ペーパー

フィリピン国家灌漑庁 (NIA) が、パンガシナン州サン・ニコラス町サン・フェリペ・ウェスト村ムーギン集落の住民移転を現在進めていること、また、フィリピン政府が今にも国際協力銀行 (JBIC) にアグノ川統合灌漑事業 (ARIIP) に対する融資の要請をしようとしていることについて、Tignay Dagiti Mannalon a Mangwayawaya ti Agno (TIMMAWA、アグノ川の自由な流れを取り戻す農民運動) は、ARIIP の実施を止めるよう要請する。

ARIIP はサンロケダムの (構想の) 一端を担っているが、そのサンロケダムの建設と操業によって起こっている問題は依然未解決である。ダムが引き起こした悪影響の問題にまず取り組まないのであれば、サンロケ多目的事業 (SRMP) のいかなる部門であっても、推し進めることは不当かつ不適切だ。さらに、ARIIP を実施する前に、これまで軽んじられてきた農民や小農民が受けた損害と同様のことが再び起こらないよう、徹底した、かつ、透明性のある調査がなされるべきだ。

私たちは、以下にあげる理由のため、ARIIP の実施について強い反対の意を表明する。

洪水制御を目的とした ARIIP :

「Ito rin ay naglalayon na makatulong na mabawasan ang malawakang pagbaha sa lalawigan sa panahon ng malakas na pag-ulan.」 (ARIIP はまた、激しい雨の際、(パンガシナン) 州の広範囲にわたる洪水を縮小する役割も目的とされている。) —ARIIP に関する NIA の配布資料 (2005 年 9 月 13 日) より

2003 年時の TIMMAWA のポジション・ペーパーの中では、「TIMMAWA は、依然として ARIIP がサンロケダムの洪水制御部門でもあるのではないかと疑っている。」と記述されている。それは、サンロケ多目的ダム事業の計画段階に住民協議が行なわれず、住民が参加できなかったことが主な原因となっており、ARIIP が主として灌漑の目的ではなく、洪水制御部門の一部として利用されるのではないかと、という私たちの疑いと不安を明確に表している。再調整池用のダムは、サンロケダムが操業を続ける際にダムから定期的に放水される大量の水を調整するために利用されることになる。台風がくる時期、2003 年および 2004 年には、サンロケダムから放水された水により、商業および農業地域が洪水に見舞われたが、そうしたことが再び起こらないよう、ARIIP

の水路は、雨季にダムから放水される大量の水を洪水の影響を普段は受けない地域に分散させるために利用されるだろう。もし、灌漑用水路を通じて、大量の水が農地へ流れ込めば、作物への洪水被害や農地の浸食などの損害が一般農民の脅威となる。

発電および灌漑の両目的を達成しようとするにあたっての矛盾（灌漑用水の不足のリスク）（事業実績を達成できないリスク）：

発電および灌漑というサンロケ多目的ダム事業の両部門は、その各水源を同じ貯水池の水に依存する。つまり、特に乾季、あるいは、旱魃のある年などにはなおさらだが、ARIIP における灌漑用水の水量を、サンロケパワースタッフ（SRPC）の電力供給に必要な水量との間で調整しなくてはならないことを示唆している。そのような水不足の危険性を鑑みた場合、ARIIP が目的としている毎年 34,450 ヘクタールの灌漑（SRMP の事業者によれば、87,000 ヘクタール）が可能である保証はどこにもない。

私たちは、サンロケダムに伴う灌漑事業については、いかなるものであっても、能率的な灌漑方法ではなく、また、農民へ新たな負担を課すのみであると考えている。

水利費の増大、CIS（地域共同灌漑システム）における農民の協同と自主管理の消滅、灌漑システムを統合するリスク：

NIA が徴収する水利費は農民に対する新たな負担となる。つまり、農民の収穫高を増大させる手助けになるどころか、NIA が農民から集金する存在となり、収穫後、農民の手元にはほとんど何も残さないことを意味する。現在、NIA が運用を行なっている地域において、NIA は 1 ヘクタール当たり年間約 2,500 ペソを徴収している（雨季 1,000 ペソ、つまり、米 2 カバン。乾季 1,500 ペソ、つまり、米 3 カバン）。こうした費用はたいてい、収穫期である 12 月と 6 月中に徴収される。

加えて、農民組織によって運営・管理されている地域共同灌漑システム（CIS）が既に存在している。こうしたシステムは NIA から独立しており、NIA に対する水利費などは支払っていない。普通、CIS を維持するために、そのメンバーに労働力の提供を要求するのみである。

要約すると、NIA の管理する灌漑システム、および、農民が自主的に管理する灌漑システムを NIA が一つの大きな灌漑枠組に統合する目的で、ARIIP を実施し、管理していくならば、私たちは以下のような明らかな影響があるだろうと考える。

1. 水利費の増大。海外融資機関からの融資を利用して作られた NIA の灌漑水路がある他の場所の例をみると、ARIIP の実施に使われる費用の支払いは、より高い水利費の徴収を通じて、農民に課せられることになるだろう。
2. もともと CIS に依存してきた農民の新たな支出。農民は、これまでに彼らが行なってきた労働力での貢献の代わりに、水利費を払わなくてはならない。（労働力の提供という）以前からの慣習は、農民が収穫を自家消費用にとっておくのに役立ってきたが、NIA の徴収の枠組みにおいては、農民の手元に残される Palay の量は減少するだろう。
3. 発電および灌漑に必要な水量について、どちらの目的を優先させるか矛盾が生じるため、乾季において水不足が起こるより高い危険性

- すべての灌漑システムが一つの大規模なシステムに統合され、サンロケダムに付属する形になるため、水不足の危険性はより広範囲の地域にわたることになり、より多くの農民が影響を受けることになるだろう。
- ARIIP のような大規模な灌漑システムは、農民にとっても、あるいは、NIA 自身にとっても、より扱いにくいものである。

提言：

NIA に対して

私たちは NIA に対し、NIA の計画を再検討し、大規模かつ費用が高かつき、高い危険性を孕む灌漑システムではなく、より管理しやすく、農民にやさしい灌漑計画を提案するよう求める。その過程では、計画の再検討、また、草の根レベルでの徹底的な協議と計画および意思決定への参加が要請されるが、こうしたことは ARIIP のケースではまったく行なわれなかった。

農民および小農民の組織として、TIMMAWA は、灌漑事業の実施にあたり、以下の点が NIA によって考慮されるべきであると提案する。私たちは、ARIIP よりもこれらの提案のほうが、貧しい農民にとって真に役立つものであり、仮に農民への直接かつ間接の悪影響があったとしても、より小さい影響にとどまると確信している。

- 既存の水路の改修。アグノ川の上流部に鉱山会社があるため、堆砂が沈殿し、水路に土砂堆積がたまっていくため。NIA 自身の報告書によれば、雨季でさえ、NIA の水路はそのサービス地域すべてを効果的に灌漑できていない。

パンガシナン州の灌漑

灌漑システム	灌漑目標地域（ヘクタール）	実際の灌漑地域（乾季）（ヘクタール）	実際の灌漑地域（雨季）（ヘクタール）
ARIS	20,000	5,500	14,200
LARIS	10,200	2,900	7,400
ADRIIS	8,100	1,100	5,200
CIS	11,600	no data	11,600

- 一つの大きな灌漑ダムの建設ではなく、いくつかの小規模なため池用ダムの建設。パンガシナン州の農業は小規模、分散型、かつ組織的でないことで特色づけられる。これは農業について、フィリピンが依然として後進国のためである。小規模なため池用ダムは、大きく、中央集権的な灌漑ダムよりも多くの農民の役に立ち、利益をもたらすだろう。

- 水ポンプの利用も奨励される。それは、農民の灌漑ニーズを満足させ、かつ、大規模な灌漑システムに依存するよりも水不足の危険性を小さくすることを保証する。

- NIA の灌漑サービスに関する NIA の一部の報告書を参照すると、雨季、CIS は NIA が管理している灌漑システムよりも効果的に水を供給できていることを、私たちは確認できる。これは、地元で管理する灌漑システムがその目的を効果的に果たしうることを示唆している。農民が地元の水源をより多く利用し、施設を改良できるように支援することが、まったく新しい灌漑システムを導入するよりも、彼らの利益になりうる。そうすることで、また、農民の協同と団結を高め、NIA の管理する灌漑システムの水利費よりも小さい負担になる。

JBIC に対して

同様に、私たちは、国際協力銀行（JBIC）に対し、開発事業と偽って、実際は住民の重荷となっている事業への融資を丁重に断るよう要求する。第 2 次世界大戦時の日本のフィリピンへの直接的な侵略は、私たちフィリピン人に多くの死人と怪我人を出した。現在、日本は、こうした厄介な事業に融資することで、依然、フィリピン人を危機に追いやっている。私たちは、真に農民のためになり、また、農民の発展、かつフィリピンの農業の発展のためになる、代替の灌漑システム事業に関する調査の支援を行なうよう、JBIC に対して要求したい。フィリピン人の名において行なわれる融資は、真にフィリピン人の利益になるべきであり、そうすることが JBIC のような国際的な融資機関の責任の一つでもある。